

## 「琉球政府の看護制度」 ～ 琉球政府時代の看護 ～

### 1 はじめに

#### 自己紹介

看護人生を振り返る・マズローの自己実現の理論風に

自己実現・マズローの自己実現の理論・5段階

- ①生理的生命維持②安全安楽・経済安定・環境、③社会的・所属集団、  
④存在価値を認めて貰う・承認の欲求、⑤自己実現・能力の発揮

### 2 看護について

看護の対象・ライフサイクル上の全ての人の健康レベル

- ・ライフサイクル上の人とは・胎児期から終末期
- ・健康のレベルとは・健やかで日常生活に支障がない状態から死に至るレベル

看護の領域と役割・看護・保健・助産

看護師・病院・診療所の臨床看護婦は主として治療援助、回復支援

保健師・保健所・市役所・企業・学校で健康増進、予防活動、生教育や健康相談

助産師・病院や助産施設で分娩介助、妊産婦指導、母子保健

役割・基本的には医療保健活動の中で人間の持つ自助力を助ける

具体的な活動

- ・戦前→医師診療の補助者
- ・戦後→疾病予防、治療補助、特に近年は健康寿命の延伸支援

1978年にWHOがPHCを発表

各国に対し、自国民の健康確保を義務化、看護職者の役割の変化

日本の健康づくり政策

人口の高齢化に伴う健康づくり政策・一次、二次、三次対策を発表

21世紀・人生100歳時代の政策・健康寿命の延伸

健康沖縄21・各市町村21

- ・近年は・看護の専門分化が生じている。

看護の専門分化の要因

小子高齢社会の進展→保健医療福祉政策の多様化

医学の進歩、医療の発展→看護の役割変化→専門分化

## 看護教育

戦前は各病院で養成(徒弟教育的) → 近年は看護の大学教育化  
 近年の看護・学問として科学としての看護・エビデンスを求める

### 3 看護職者の社会的地位

戦後 GHQ の看護改革→看護の近代化・看護の社会的評価  
 沖縄→琉球政府の看護布令による看護制度・看護の社会的評価  
 看護教育→(質の高い看護を提供) 看護職者の評価  
 USCAR の看護担当官の貢献大

沖縄の看護の先駆者達紹介

ワニタワータワース、真玉橋ノブ、金城妙子

### 4 琉球政府(GRI)の看護制度

GRI の看護制度		備 考
関係法令	看護布令→公助看法	保健婦助産婦看護婦法((助看法に準拠、本土化)
看護教育	基礎教育が高卒 看護教育体制 看護教員に大学履修の義務化	准看護婦制度が無い (独自の教育課程) 琉大と提携した革新的体制→看護の質向上 看護学生は琉大学生として大学単位の授与。 教員資格に本土より高い教育レベルを求めた
海外研修 看護人材育成	看護師並びに保健師 約各 50 名以上	台湾、フィリッピン、オーストラリア、ハワイ、アメリカ本国、英国、デンマーク、スウェーデン
特有な看護	① リハ看護 ② 公看駐在制度  麻酔看護の試み	① 本土より 20 年以上早く全島に普及 ② 保健行政を補完、医療過疎地域に保健所事業の浸透、並びに保健師活動の普遍化。 JIC OIC が開発途上国へ技術移転を希望

結果・質の高い看護を提供、矛盾点・看護の需要供給の問題  
 協力者・戦後医療の開拓者(若い医師達の看護に対する理解大)

### 5 お願

看護の歴史資料発掘の協力依頼

他県の状況・看護教育の大学教育化によって看護史が掘り起こされている  
 沖縄の現状と課題・一次資料の皆無 or 散逸、且つ未収集、未整理  
 記念誌的資料は多数(看護学校/看護協会/看護職能団体/病院関係)  
 諸記録等で語られている出来事・史実・状況検証の必要性